

説教題：憐れみを受けた者の讚美(31～)

聖書:マタイ 15章29～31節

<口語訳>

新約聖書25～ 頁

マタイ 15章29～31節

<新共同訳>

新約聖書31～ 頁

マタイ 15章29～31節

<新改訳第3版>

新約聖書31～ 頁

マタイ 15章29～31節

<塚本訳>

新約聖書115～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ15:29～31節**の「**憐れみを受けた者の讚美(31～)**」の**主のみ言葉**から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実・奥義**」)を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ツロ、シドンを去って、ガリラヤ湖畔の山上に登られました。
- ⇒大勢の群衆が、押寄せ、「足なえ、片輪、盲人、啞、そのほか多くの者を主の足もとに置いたので、それをなおされた」のです。
- ⇒群衆は、「啞が物を言い、片輪が直り、足なえが歩きまわり、盲人が目が見えるようになったのを見て驚き、イスラエルの神を讚美した」のです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、群衆を癒すことが目的で山に登られたのではありませんが、憐れみの心から癒してくださいました。

本論；

◇本日、**マタイ書15:29～31節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ15章29～31節**；使徒**マタイ**は、「**憐れみを受けた者の讚美**(31～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**15:29～31節**；塚本訳◆**湖畔の治療**

「29 それからイエスはそこを去って、ガリラヤ湖のほとりにかえり、山に上ってそこに坐られた。
30 大勢の群衆が足なえ、片輪、盲人、啞、そのほか多くの者をつれてイエスの所に来て、足もとに置いたので、それをなおされた。
31 群衆は啞が物を言い、片輪が直り、足なえが歩きまわり、盲人が目が見えるようになったのを見て驚き、イスラエルの神を讚美した。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ15:29～31節**は、「**御子イエス・キリスト様**」の憐れみと群衆が、主の癒しのわざをなさったのを「見て驚き、イスラエルの神を讚美した」のです。

⇒**マタイ**は、群衆の信仰を問うていません。

- ⇒「**カナンの女性**」の娘の癒しの時は、主は、女性の信仰は、りっぱだと仰せになったので、群衆の癒しが際立った印象を与えます。
- ⇒癒しは、必ずしも、**神信仰の結果**ではないこともあることを示します。
- ⇒癒しは、主の憐れみが大事であることを知らされます。
- ⇒癒しの祈りが無駄なのではありませんが、主役が逆転しやすいのです。
- ⇒ある意味で、私たちも、群衆のひとりで、主が驚くべきわざをしてくださることを期待して、主を礼拝することがあります。
- ⇒礼拝は、「**カナンの女性**」のように、**神の前**にひれ伏すことですが、自分の罪深さを忘れて、漫然と讚美し、説教を聞いていることがあります。
- ⇒主の憐れみは、**神信仰**のありなしに関係なく、すべての人に注がれています。
- ⇒何が、癒しだけを求める群衆と「**カナンの女性**」のように、ひれ伏す礼拝者と違うのか、密かに弟子たちに問うておられるのです。
- ⇒**マタイ15:32**の箇所にあります。

- ⇒**KT師**は、「愛は、反芻するものである」とのドイツの神学者ボーレン博士のことばを引用して、群衆の給食、聖餐において、同じことを反芻して、**神の愛の意味**を味わうと。
- ⇒群衆だけでなく、私たちも、手に何も持っていないものです。あるのは、**神**が私たちの罪を赦し、常に共にいて下さるしるしの「**聖霊**」を心に内住させていて下さることです。
- ⇒これ以上、大きな**神**の憐れみはありません。
- ⇒**SY師**によりますと、主は長旅をして、偶像の満ちているデカポリス近くのヘルモン山に登り、悲惨な生活をしていた人々が、疲れ切った状態で、病人たちを山頂まで運び、置いた(投げ出した)のです。
- ⇒その悲惨な様子を見て、病人たちを次々主は、癒して下さったと、**SY師**は説き明かされる。多くの国が貧困に喘いでいる
- ⇒貧困に喘いでいる国々のことを思わされます。
- ⇒【口語訳】エペソ 1:7
- わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇本日は**マタイ15:29～31節**の「**憐れみを受けた者の讚美(31～)**」の**主のみ言葉**から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実・奥義**」)を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ツロ、シドンを去って、ガリラヤ湖畔の山上に登られました。
- ⇒大勢の群衆が、押寄せ、「足なえ、片輪、盲人、啞、そのほか多くの者を主の足もとに置いたので、それをなおされた」のです。
- ⇒群衆は、「啞が物を言い、片輪が直り、足なえが歩きまわり、盲人が目が見えるようになったのを見て驚き、イスラエルの神を讚美した」のです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、群衆を癒すことが目的で山に登られたのではありませんが、憐れみの心から癒してくださいました。
- ⇒群衆は、私たちの姿です。

⇒ I コリント15:10【口語訳】

しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。